

# 首脳夫人9人が Cottonの苗植え

— 藤原小で交流会 —



Cottonの苗を一緒に植えるツバル首相夫人と好間一小の児童たち



交流会では質疑応答が行われた

開催に合わせて来日した各首脳の配偶者プログラムとして、子どもたちとの交流会が23日、藤原小で行われた。  
安倍首相夫人の昭恵さんと、パラオ、マーシャル諸島、ナウル、フィジー、ニウエ、クック諸島、ツバル、バヌアツの8カ国の夫人が参加した。歓

迎の横断幕を作った市内14小・中学校の児童・生徒30人、市内の高校生で組織した太平洋・島サミット応援隊の生徒20人と交流を楽しんだ。  
小・中学生と手をつないだ夫人たちが、応援隊の生徒たちのエスコートで入場。昭恵さんとパオ

のデビュー・レメンゲサウ大統領夫人があいさつ。サミット応援隊の生徒たちが、これまでの自分たちの活動を英語でスピーチした。  
ふくしまオーガニック Cottonの取り組みが紹介され、9人の夫人が子どもたちと苗を植えた。応援隊の生徒たちが、夫人へ英語で植え方を説明し、小・中学生と夫人がポットに入った苗を植えて土をかぶせ、水を掛けて成長を願った。植えた鉢は各学校へ持ち帰り、育てられる。

2つのテーブルに分かれての交流会で、質疑応答の時間が持たれた。子どもたちは「横断幕の感想は」「国を代表する花は」「魚は好きですか」などと尋ね、夫人たちは優しく答えた。  
最後に、本市で生まれ

た綿と種を使った Cotton ベイブがプレゼントとして子どもたちから夫人たちに手渡され、握手したり、抱き合うなどしてそれぞれに別れを惜しんだ。

ツバルのサリロ・エネレ・ソポアンガ首相夫人と一緒に活動した鈴木寛子さん（好間一小6年）は「初めて外国人の人と触れ合ったけれど、夫人はとても優しく、とても楽しい交流会になった。一緒に植えた苗が大きくなってほしい」と話した。また、応援隊としてかかわった山中優花さん（いわき総合高3年）は「英語でしっかり説明できたので、自分としてはよくできた。皆さんに喜んでもらえているとうれしい」と胸をなでおろした。